

講習の名称	人にとっての動きの原点	講習番号	D
開催日	平成26年8月22日(金)	定員	80名
主な受講対象者	小学校教諭、中・高等学校保健体育教諭		
担当講師	天野 勝弘(経済学部准教授)		
講習の概要	<p>保健体育教科の目的は、動きを通して人間の社会的側面(知識、社会性、道徳など)に働きかけ、それらを高めていくことである。そこで、本講習では、ヒトにとっての動きの原点を確認し、動き教育がもつ可能性を考えることにしたい。具体的には、</p> <p>1. 姿勢について 講義「よい姿勢とは何か」、実習「各自の姿勢の評価(若干の測定)」</p> <p>2. 身体技法(民族の踊りなど)による動き教育の可能性 講義「身体技法の公教育への活用」、実習「民族の踊りの体験」</p>		
講習計画	09:30~10:30 (60分)	教育への導入を視野に入れて姿勢について考える【講義】 まずよい姿勢とは何かについて考える。美しい、動ける、楽など、これらはすべてよい姿勢と言われている。次に、公教育における姿勢教育の必要性と可能性について考えたい。	
	10:30~10:40	休憩	
	10:40~12:10 (90分)	自分の姿勢の測定と評価【実習1】 ここでは、自分の姿勢を客観的にみつめる作業を行う。すなわち、姿勢を評価するためのいくつかの測定を実施する。姿勢の写真撮影、スパイナルマウス(背骨の形状計測)、足圧分布など。	
	12:10~13:00	昼食休憩	
	13:00~13:50 (50分)	身体技法(民族の踊りなど)による動き教育の可能性【講義】 身体技法とは民族が培ってきた身体観であり、風土(外界)とからだとのコミュニケーション方法ともいえる。そこには、型(構え=姿勢)という概念と、伝える(教育)というメソッドが含有されている。	
	13:50~14:00	休憩(移動)	
	14:00~15:00 (60分)	身体技法の体験【実習2】 地唄舞という踊りの実習。上方舞名取の方の踊りを鑑賞し、若干の実技指導を受ける。その課程で、身体技法がいかに伝授されるかを体験することにより、からだを通じた学びの可能性について考えたい。	
	15:00~15:10	休憩	
	15:10~15:50 (40分)	からだ、姿勢、コミュニケーション、教育【講義】 これまでの内容を総合して今後の教育についてみんなで考えたい。名取および受講生の意見も聞き、まとめの講義とする。	
	15:50~16:00	休憩	
	16:00~17:00 (60分)	試験 筆記試験を行います。	
17:00~17:10	事後評価アンケート		
成績評価の観点	身体技法のもつ意味を、からだ、姿勢、コミュニケーション、教育という視点で理解しているか。		
備考	動きやすい服装であれば、運動着の着用は必要ありません。		